

第3回（令和7年度）

旭川市内小学生『民生委員・児童委員』作文コンテスト

**「家族っていいな、あいさつするのって、
ご近所さんと、自分って」など、身近な
できごとを、自分の考えで、自分の言葉で
表現してみよう！！**

【入賞（最優秀賞、優秀賞、優良賞、佳作）作文集】



旭川市民生委員児童委員連絡協議会

【目次】

■最優秀賞（旭川市民生委員児童委員連絡協議会長賞） 地域の見守り役「民生委員」

旭川市立向陵小学校 五年 千尋玲奈さん …… P 1

■優秀賞（旭川市長賞） 民生委員は大切な仕事

旭川市立忠和小学校 五年 秋山結菜さん …… P 2

■優秀賞（旭川市教育委員会教育長賞） 前向きな笑顔のそばで

旭川市立千代田小学校 五年 鈴木百華さん …… P 3

■優秀賞（旭川市小学校長会長賞） お世話になった近所のおじさん

旭川市立神楽岡小学校 六年 土井ゆつきさん …… P 4

■優秀賞（旭川市社会福祉協議会長賞） 地域の家族

旭川市立千代田小学校 五年 安岡旺恵さん …… P 5

■優良賞 民生委員のおばあちゃん

旭川市立神楽岡小学校 六年 畠山つむぎさん …… P 6

■優良賞 あいさつはまほうの言葉

旭川市立神楽岡小学校 六年 野村 隼大さん …… P 7

■優良賞 助け合いの大事さを知って

旭川市立末広小学校 六年 山田 晴斗さん …… P 8

■優良賞 あいさつの大切さ

旭川市立豊岡小学校 六年 堂田 葵さん …… P 9

■優良賞 「あいさつ」って素敵だな

旭川市立永山南小学校 五年 吉川 英汰さん …… P 10

■佳作 私の心配

旭川市立神楽岡小学校 六年 木下 詩唯さん …… P 11

■佳作 人と人との関わり

旭川市立旭川小学校 六年 遠藤千菜美さん …… P 12

【総評】 …… P 13

■最優秀賞（旭川市民生委員児童委員連絡協議会長賞）

地域の見守り役「民生委員」

旭川市立向陵小学校 五年 千尋玲奈

私の身近には、民生委員・児童委員の方がいます。町の安心を支え、皆を見守る大切な方々です。ですが、民生委員・児童委員が何をして、どのような形で地域の人と関わっているのか、全く知りませんでした。そこで、この作文を書く事をきっかけに、民生委員と関わりのある人に話を聞いてみました。

私の母は介護の仕事をしていて、お年寄りの家を訪問する事があります。以前、訪問した際に反応がなく、新聞がたまっていた事があったそうです。そんな時、母は様々な方と連絡を取るそうです。誰よりも早く来てくれた方が民生委員の方だったそうです。とても安心したと話していました。民生委員の方はお仕事をする時、民生委員証や四葉のクローバーのマークをつけているそうです。その様なマークをつけている方を見かけたら、声をかけて感謝の気持ちを伝えようと思います。

朝、登校する時に、「行ってらっしゃい」と声をかけてくれる方がいます。今までは誰なのか、あまり気にしていなかったけれど、「みんせい」のフリーペーパーを読み、民生委員の方がやってくれている事に驚きました。お給料がもらえるわけでもないのに、わざわざ活動をしてくださるのは、町内会を大切にしてくれているからだと思います。

私が住む地域の町内会は、夏にジジスカン祭りがあり、町内

全体で盛り上がります。子どもが多い町内なので、私は低学年の子と一緒にかくれんぼや鬼ごっこをして遊びます。その時に、その子のお父さんが、「玲奈ちゃんなら安心して任せられる」言ってくれた事がとても嬉しかったです。信頼される事が民生委員にとって大切なことなのだと思います。

冬になると町内全体で雪かきをします。毎年同じ人がゴミステーションの周りを雪かきしてくれるので、今年こそと思い、私も雪かきました。すると、いつも雪かきしてくれる方が褒めてくれました。一つ、町内のために何かするだけで喜んでもらえる事を実感し、これからも誰かのためになる事は進んで行おうと思いました。雪かきをした時、町内の方が私のピアノが上手になっていて、毎日聞いていると言ってくださいました。

とても嬉しく、続けていて良かったと思いました。

町内から信頼を得られないと民生委員にはなれないと思います。「信頼される嬉しさ」は、民生委員の方が活動をするための原動力になっているのだと感じました。私が感じた思いは、民生委員の方が地域で感じている気持ちと同じなのかなと思います。民生委員は「信頼されている証拠」なのだと思うと、そんな民生委員をやっている祖父や祖母が格好良く見えました。

民生委員は地域の見守り役として、皆の安心を支えてくれていると改めて感じました。これから、町内会の役に立つ事や、家族や友達に喜んでもらえる事を、私も進んでやりたいです。

■優秀賞（旭川市長賞）

民生委員は大切な仕事

旭川市立忠和小学校

五年

秋

山

結

菜

私は今まで民生委員のことを知りませんでした。唯一耳にしていたことは、私の幼稚園の頃の園長先生が民生委員をやっているということだけでした。ですが、ある日私に、民生委員が身近になるきっかけが訪れました。

それは、祖母に民生委員をお願いできないかとお声が掛かったことです。私の祖母は最初、「責任が重く、何をしてもいいかわからず、七十代半ばに迫る今の自分の年齢を考えると、民生委員をさせていただくには、高齢で大変だと感じた。来ないと思った。」と思っていたそうです。だから、引き受けるつもりはなかった。厚生労働大臣からの委嘱状を授与されたときもずっと「重責だ。」と不安の中、民生委員を始めたそうです。

私は、民生委員の仕事に対して思うことがあります。

一つ目は、民生委員の存在の大切さをもっと多くの人たちが、民生委員の役割を真に受け止められる世の中にしていく必要があると思います。それは今回、私の祖母も同じように考えた一因でしたが、私の祖母の周りにも、民生委員と聞くだけで「責任を感じてできません。」などという考えの人達であふれていたそうです。抱えてくださっている仕事の内容を聞くと、地域に住む高齢者やひとり親家庭など、様々な状況にいらっしゃる人達が、暮らしやすい状況になるように、行政の方との連絡調整をするとい

う大切で、欠かせない仕事ばかりをされているそうでした。母に聞くと、母が母子家庭になったときに、地域の民生委員さんにお世話になったそうです。これほどの大切な仕事だからこそ、多くの人たちが仕事の内容をもっと深く理解でき、協力できるようにする必要があります。

二つ目は、「やればできる！今日から私も民生委員！」をキャッチフレーズにして、町内会などの自治体で民生委員の方々がしている仕事の役割を担えるような取組みを進める必要があると考えました。なぜなら、民生委員は3年の任期で委嘱されるため、民生委員をできる人は限られてしまします。しかし、誰もが挑戦できるように、民生委員の仕事の垣根を低くして、地域住民一人一人が民生委員になったつもりで活動していくことが、これからの世の中には大切なのではないかと思いました。

そこで私は、祖母や民生委員の人を見習って、同じ地域に住む皆さんや、通り掛かった人に挨拶をしたり、会話をしたり、行事に参加したりと様々な交流をすることが心の垣根取り払えるような試みから挑戦してみようと思います。祖母も、民生委員を始めから少したった今は、前向きに仕事に取り組んでいるように見えます。民生委員の人達には日頃から支えてもらっているのも地域の一員として民生委員の方々に恩返しをしていきたいと思っています。

■優秀賞（旭川市教育委員会教育長賞）

前向きな笑顔のそばで

旭川市立千代田小学校 五年 鈴木 木 百 華

私のおじいちゃんは、関節リュウマチという病気のため、身体しょう害者二級です。ふだんは、車いすで生活しています。手や足の関節がかたまっているの、シャツのボタンは上から三番目までしかとめられません。くつひもを結ぶこともできません。

私が小学五年生になり、当たり前前にできるようになったことが、おじいちゃんにとってはかんたんではないことを知りました。それでもおじいちゃんは、「できないこと」よりも「できること」に目を向けています。身体が不自由でも、皿洗いをしたり、ゴミを分別したりと、自分でできることを探して取り組むのがとても上手です。時間がかかっても、笑顔でこなしていきます。

私は、その笑顔の中に本当の強さを感じました。できないことを受け入れながら「どうしたらできるかな」と考え、ちょう戦し続けているからです。その姿は、いつも前向きです。おじいちゃんと過ごす中で、私は大切な考え方を学びました。それは、自分にあるものに目を向け、前向きに受け止めることです。できないことは、悲しいことではなく、工夫するきっかけなのかもしれません。チャレンジすることで、新しい喜びが生まれることを、おじいちゃんは教えてくれました。

勉強でむずかしい問題にぶつかった時や、スポーツで思うように体が動かない時、前の私はすぐに「できない」と思っていました。

た。でも今は、「できるようになるまで、もう少しがんばってみよう」「楽しみながら続けてみよう」と考えられるようになりました。家族の中に、この考えがあると、空気がやさしくなります。できないことを責めるのではなく、できることを一緒に見つけ、喜び合おうとする気持ちが安心して暮らせる毎日につながっていると感じます。

私は、これからもおじいちゃんを見習いながら感謝の気持ちをつわすれず、前向きにちょう戦していきたいです。そうして生まれるあたたかい空気の中で、家族と笑顔でくらししていきたいと思っています。



■優秀賞（旭川市小学校長会長賞）

お世話になった近所のおじさん

旭川市立神楽岡小学校 六年 土井 ゆづき

私の家の近所には小さな頃からお世話をしてもらったおじさんがいます。

そのおじさんに、夏は自転車・一輪車の練習、冬はスキーを教えてもらいました。そして、学校の登下校時の見守り、毎朝のあいさつなど本当にたくさんのかんことをしてもらい、いつも元氣をもらいました。

そのおじさんの優しさは私だけでなく、私の家族、近所の友達やその家族、学校みんなにも向けられていました。

毎朝してくれたあいさつは、私が学校に行きたくないと感じる日も頑張ろうと思わせてくれ、笑顔になれるものです。また、手作りの「竹とんぼ」も学校に寄付してくれました。その「竹とんぼ」を校長先生が飛ばしてみた時、学校中が喜びであふれました。私はみんなを喜ばせられることができるおじさんは「すごい！」と改めて感じ、尊敬しました。

しかし、二年ほど前からおじさんは病気になる、顔を合わせるこことが減り、去年おじさんは亡くなってしまいました。そこで、私は三つのことに気付きました。

一つ目は、あいさつの大切さです。誰かとあいさつすることは今まで何の意味があるのか分かりませんでした。しかし、おじさんとのあいさつを思い返すと、あいさつを誰かとすることでお

く感情があることに気付きました。

二つ目は、そのことにより、近所同士のつながりができるということ。私はおじさんの家へ自転車を教わりに行った時、おじさんの家には色々な人が来ていました。そして、その人たちはおじさんが毎日あいさつをしている人でした。

三つ目は、おじさんは近所で頼りになる存在だったということです。例えば、私の母は夏に庭で野菜を育てます。しかし、上手く育たないときもあり、その時にはいつも、おじさんに相談していました。他にも学校周辺や通学路などの除雪もしてくれていました。それは私の姉が小学生の時からと、長い間お世話になりました。

こんなにも多くのことをしてくれたおじさんにたくさんのかん謝を伝えたいです。そして今、私の地域ではおじさんが生きていた頃より静かになりました。登下校も少しさみしいです。

おじさんが亡くなってから改めておじさんの偉大さに気付きました。みんなから頼りにされるおじさんのように、私も近所の人との関わりを大切にしたいです。

最後に、おじさんが亡くなる少し前にお見まいに行き、会ってお話できてよかったです

■優秀賞（旭川市社会福祉協議会長賞）

地域の家族

旭川市立千代田小学校

五年

安 やす

岡 おか

旺 おう

恵 めい

ぼくが去年インフルエンザで学校を休んでいたときのことです。熱が高くて体がだるく、一人で部屋にいと、とても心細くて泣きたい気持ちになりました。でもお母さんが冷たいタオルを持ってきてくれたり、やわらかい食べ物を持ってきてくれて、「早く元気になろうね」と声をかけてくれたりするたびに、ホッとして安心することができました。家族がそばにいてくれるだけで、心まで温くなるのだと身をもって感じた出来事でした。

そして、家に時々くる回らん板を目にした時に民生委員さんの存在を知りました。何も知らなかったので民生委員さんについて調べてみました。するとぼくはあの時の心細さを思い出しました。民生委員さんは、一人でくらししているおじいさんおばあさんや、病気やケガで外に出られない人の家を訪ねているそうです。もし、ぼくが病気の時に誰も声をかけてくれなかったら・・・と考えると、一人で過ごしている人の不安はどれほど大きいだろうと思います。そんな心細い思いをしている人の家を訪ねる民生委員さんは、地域の家族だと思いました。

本当の家族ではなくても、自分のことのように相手を心配し、声をかけ続けることは、とても勇気があるし素ばらしいことだと思います。

ぼくはこれまで毎日家族といっしょにごはんを食べたり、おしゃ

べりをするのを当たり前だと思っていました。でも、民生委員さんの活動を知ったことで実は、その当たり前こそが何よりも大切に幸せな家族の素晴らしさなのだ気づくことができました。ぼくはまだ子供なので、民生委員さんのように誰かの相談にのることはできません。でも、家族からもらっている温かさを、地域の人におすそ分けすることはできるはずです。

学校の帰り道、地域で見守ってくれている民生委員さんや近所の方に自分から元気よくあいさつすることから始めたいです。お互いに声をかけ合える関係が増えれば、地域全体から一つ大きな家族のようになり、みんながもっと安心してくらせるようになると思うからです。



■優良賞

民生委員のおばあちゃん

はだけ やま

旭川市立神楽岡小学校 六年 畠 山 つむぎ

私のおばあちゃんは、札幌に住んでいます。おばあちゃんは、遊びに行くといつも笑顔でむかえてくれて、優しく、とても礼儀正しい人です。そんな私のおばあちゃんは、「民生委員」です。なので、民生委員のことについておばあちゃんにくわしく聞いてみました。

おばあちゃんの仕事は、一人暮らしのお年寄りの安否確認や、話し相手になることです。一見、簡単そうに見えますが、大変なことたくさんありました。お年寄りのお宅を訪問しても会えなくて、何回も行かないといけなかったり、ひどい時だと「あんたの世話になったりしないよ！もう来ないでくれ！」とつき返さったりもしたそうです。

おばあちゃんが民生委員の仕事で気をつけていることは、街でお年寄りを見かけたら、名前を呼んであいさつすることを気をつけていると言っていました。

ある日、おとなりのおじいさんがチャイムを鳴らしても出てこなく、警察と救急車を呼んで中へ入ると、亡くなってしまっていたことがありました。その時は、警察に話を聞かれたり、ご家族が近くに住んでおらず、病院に行って確認しないといけなかったりと、その日はなかなか寝れなかった、と言っていました。でも、大変なことだけではありません。家を訪問すると

「ごくろうさまです。」

や、

「大変ですね。」

と言ってくれて、とてもうれしくなるそうです。他にも、年上の人カラオケ、ダンスなどいろいろなことにチャレンジしている姿を見て、

「自分もそんな風になりたいな。」

と思うこともあり、とても勉強になると言っていました。私もまだまだ先だけど、おばあちゃんみたいになりたいと思っています。

少し前に、おばあちゃんの民生委員の仕事がほめられて、北海道から賞状と手乗りサイズの時計をもらいました。そのときにおばあちゃんがとてもほこらしそうにっていて、私もうれしくなりました。今でも、賞状はたなにかざられて、時計はテレビ台の上で力チ、力チと元気に動いています。それを見るたび、私もほこらしくなります。

■優良賞

あいさつはまほうの言葉

旭川市立神楽岡小学校 六年 野村隼大 の むら はや た

僕の住んでいる地域、学校には、地域ボランティアの方がいて毎朝、登校時間に通学路に立ち、交通安全の指導をしてくださったり、子どもたちが危険のないように見守ってくれています。蛍光色のビブスやジャンパーを着用しているので遠くからでもすぐに分かります。僕が入学して間もないころ、学校に登校するとき一人でドキドキしているとボランティアの方が見える所にくれたのでそのドキドキはほんと安心に変わったことを覚えています。特に低学年にとっては大人の方が見守ってくれているということがわかるのは大きな安心になると思います。

「おはようございます。」

のあいさつをするとボランティアの方が、

「おはよう」

と笑顔であいさつをしてくれます。

あいさつは、人と人とのつながりの中でとても大切なもので、コミュニケーションのきっかけになり、あいさつをすることですの日の気分や気持ちもよくなります。そのおかげで、朝からパワーをもらい、頑張ろうと思います。あいさつは、短い言葉ですが、人を元気にするまほうの言葉だなあと感じました。僕も近所の人やお友だちに積極的に自分からあいさつするということを常に心がけていきたいと思っています。

また、地域の活動の一つとして町内のゴミ拾いがあります。

僕も家族で参加しています。参加する前は、ゴミ拾いに対してあまり深く考えていなかったのですが、いざ参加してみるとふだん同じ町内に住んでいても会ったことのない人や知らない人もいてあいさつを交わすことにより、初対面の人、年のはなれた人とも少しきよりが縮まったような気がしました。後日、会った時に「この間は、ご苦勞様。」

と声をかけてもらい、とても嬉しかったです。

近所のおじさんは、通学路の除雪をしてくれたり、雪解けの季節には、雪割りをして僕たちが通りやすいようにきれいにしてくれます。僕たちの周りには、沢山の人がいて僕たちが安全に、学校に登下校できるように見守ってくれているということに改めて実感しました。

地域の方やボランティアの方に感謝の気持ちを常に持ち、会った時には、自分からあいさつをしていつもありがとうございますの感謝の気持ちを伝えたいと思います。

都会では近所付き合い等は、全くなくおとなりに住んでいる人も知らないというニユースをよく見るので、僕の地域は恵まれていると思うので僕自身もこれから機会があれば、積極的に地域のイベント等に参加していきたいと思っています。

■優良賞

助け合いの大事さを知って

旭川市立末広小学校 六年 山田晴斗 やまだ はると

ぼくは、町内会の活動に興味を持ってから三年ほどたちました。町内清掃は必ず参加して、去年はラジオ体操に来た人に、はんこを押す仕事をさせてもらい、町内の人に元気にあいさつをして、高れい者の方を笑顔にして、町内活動をがんばっています。

そんなぼくは去年、近所の人に助けてもらった事がありました。友達と公園で遊んでいる時に、友達がころんできて、ひざから血がでていました。でも、ティッシュもばんそうこうもなかったで、家まで取りに帰ろうと思いました。けど、家には誰もいないし力ギもないので、ぼくは思いつきました。

ぼくが町内清掃の時に必ずゴミ拾いをする駐車場の理容室が近くにある。いつも、この人がゴミ拾いしていると、中から出てきた「ありがとう」と言ってくれるので、この理容室の人だったら助けてくれるかもしれないと思いました。

ぼくは少しきんちょうしましたが、友達のために勇気を出して、理容室に入り「友達がケガをしたので、ばんそうこうをもらえますか?」と言うと、優しくばんそうこうをもらう事ができました。すぐに、友達のところへもどりばんそうこうをはってあげる事ができました。

この出来事を、家に帰ってから母に話しました。すると母が「お礼をしないとね」と言うので、ぼくは「ちゃんと、ありがとう

うございますって言ったよ」を母に伝えました。そうすると、母が「言葉でお礼は絶対だけど、ばんそうこうをもらっているから、ばんそうこうを返しに行って、もう一度お礼するんだよ」と教えてくれました。でも、ばんそうこう一枚だけなのになと思っていたぼくに、母が「しっかりお礼をすると、また晴斗が困った時に必ず助けてもらえるよ」と言いました。

なるほどと、思いました。

ぼくが、町内清掃で毎回駐車場のゴミ拾いをしているのを覚えてくれていたのかも知れませんが、だから、優しくばんそうこうをくれたのかもしれないと思いました。

後日、ぼくはドキドキしながら理容室に、ばんそうこうを持ってお礼に行ってきました。しっかりお礼ができて、気分がとても良かったです。

ぼくは、助けてくれた理容室の駐車場をこれからもゴミ拾いを続けようと思います。

人は助け合いが大事だな、と思う出来事でした。

あいさつの大切さ

旭川市立豊岡小学校 五年 堂 田 葵 どうだ あおい

私は、五人家族です。私が年長の時に、豊岡にひっこしてきました。ひっこしばかりの時は、ママとパパが近所の家の人達にあいさつをしに行っていました。

私が小学校に入る時、近所の家に同じ小学校の人がいる事を知って一緒に行ってほしいとお願いをしに行きました。そして、一緒に行ってくれる事になりました。初めて一緒に学校に行く時は、きんちょうして、あまりあいさつもできなかったけど、それでも毎日あいさつをしてくれたので、だんだんあいさつができるようになってきました。

ななめ前のおじいちゃんとおばあちゃんもひっこしてきた時からずっと、今もあいさつや声をかけてくれます。ラジオ体そうの時は近所や町内の人達が集まってラジオ体そうをします。その時にもみんなであいさつをしています。

今は、私も自分から、あいさつをして、一緒に学校に行けるようになりました。ななめ前のおじいちゃんとおばあちゃんもたくさん話せるようになりました。近所の人に会った時やラジオ体そう時には、「大きくなったね。」などと声をかけてくれます。

夏には、近所の子と一緒に焼き肉や花火、スイカ割りをして仲良くなっていました。スイカ割りをして割れたスイカは、ななめ前のおじいちゃんとおばあちゃんに子ども達でおすそわけに行

きました。おじいちゃんとおばあちゃんは、お返しに育てている野菜をくれたりもしました。おじいちゃんとおばあ

ちゃんは、トマトの木を見たことのない私たちにえだを切ってそのまま家までとどけてくれて、みんなでトマトをとりました。

このように、最初にひっこしてきた時にはだれともうまく話せなかった私でも、毎日の少しずつのあいさつからだんだん楽しく話していけるようになっていきました。安心して学校にもいけるようになり、今は妹や弟も近所の子と一緒にしています。そして、近所の子達と遊んだり、おじいちゃんとおばあちゃんともあいさつをしたりお話をしながら関係を深めていきました。

こうやって、少しずつでも関係を深めていくことで、もし災害やトラブルがあった時にでも話すことができたり、助け合ったりすることができると思います。なので、あいさつやラジオ体そうなどで周りの人の顔を覚えておくことでより安心してくらせるようになると思うし、なにか災害などが起こったときに共に助け合うことができると思います。

初めて声をかけたりあいさつをする事はとてもきんちょうするし、勇気がいるけれど少しずつ関係を深めていく事で安心してその地域に住んでいく事ができるのだと思いました。友達との関係でも自然にあいさつができるようになり、こまっている人がいたら助けたりしていく事もできると思いました。学校でもあいさつ運動をしているので、これからもあいさつの大切さを伝えていきたいです。

■優良賞

「あいさつ」って素敵だな

旭川市立永山南小学校 五年 吉川 英汰 よし かわ えい た

ぼくはどちらかというと、人と接することが苦手です。そんな
ぼくが「あいさつ」することが大切だと思ったきっかけが二つあ
りました。

まず一つめは、五年生の七月に、と中入部した吹奏楽クラブで
のことです。入部したのはぼくひとりだけで、緊張や不安な気持
ちでいっぱいでしたが、上級生や部員のみんながたくさん声をか
けてくれて、すぐに仲間に入れたことです。「えいた、おはよう」
「えいた、楽器うまいね」などたくさん声をかけてもらいました。
本当に嬉しくてみんなに感謝の気持ちでいっぱいになりました。

そして二つめは、また吹奏楽でのことになりましたが、コンクー
ルがあり、みんなで頑張り全国大会に出場できることになった時
です。近所の方や地域の方に「すごいね!」「頑張ってきてね!」
「応援しているからね!」などたくさん声をかけてもらえたこ
とです。どうして知っているのか不思議に思っていると、「えい
たくんのお母さんが嬉しそうに教えてくれたんだよ。」と話して
くれました。

ぼくのお母さんは普段から近所の方や地域の方と「おはようこ
ざいます。」「今日は暑いですね。」「体調はどうですか?」な
どあいさつをかわすことがたくさんあります。時々、家の前で一
時間くらい話していることもあります。ただ、おしゃべりをして

いるんだと思っていたけれど、「あいさつ」から始まって相手の
方がことが分かり、困っていることがあると相談にのってあげて
いたり、お世話しているとお母さんから聞きました。そしてお母
さんも相談にのってもらっていることがあると言っていました。

今まで知らなかった人とも「あいさつ」によってつながること
ができるんだと知りました。地域の方とつながることは大切な事
だよ、とお母さんが教えてくれました。いつも「近所の人と会っ
たらきちんといさつをしなさい。」と言われていた意味が、こ
の二つのきっかけからわかった気がしました。

いつも周りの人から声をかけてもらい、ぼくが嬉しい気持ちに
なったり、助けてもらうことが多かったけれど、自分から大きな
声で「あいさつ」をして、困っている人がいたら声をかけたり、
友達の相談を聞いてあげたりできるようになりたいです。

まずは、友達、近所の方など
に積極的に「あいさつ」をして、
「あいさつ」って素敵だな、と
相手に思ってもらえるようになっ
たら嬉しいです。



■佳作

私の心配

旭川市立神楽岡小学校 六年 木^{きの}下^{した} 詩^し唯^い

私が通っている小学校への通学路には、車が沢山走る大きい道路や、線路があります。ちょうど通勤する車も多く、電車がすごい速さで目の前を通り過ぎる事もあり少し怖い時もあります。

朝、その線路を渡る時は、一年生の時からずっと黄緑色のジャンパーを着たおじさんが立っていました。ときには、話しながら学校まで一緒に登校してくれた事もあります。

おじさんはいつも元気で、目が合うと小さく手をふってくれたり、にこっと笑ってくれたりしました。それだけなのに「見ている人がいる」と思えて、私はとても安心して登校できました。

この間、学校からのおたよりに、そのおじさんの名前が書いてあり、「亡くなられました。」と書いてありました。すぐに、いつも線路のそばにいてくれた、あのおじさんのことだとわかりました。もうおじさんに会う事ができないのが少し悲しいです。六年間ずっと見守ってくれていたのに、おじさんに「ありがとう」がとうございます。」と言えなかったのが、少し心残りです。

四月から私の弟は小学一年生になりますが、私は中学生になるので一緒に登校できません。弟がああ通学路を一人で歩くと思うと少し心配ですが、あのおじさんの様に「児童委員」の人達が見守ってくれていると思うと、私も安心して中学校に通学する事ができます。

ができます。

私のおばあちゃんもひいおばあちゃんも同じ町で一人で暮らしていますが、車が無いと行けない距離なので、なかなか会いに行けません。たまに会いに行くと、買い物途中で転んで怪我をしていたり、家の掃除をして体を痛めている事が良くあります。もし家の中で倒れていたら誰か気づいてあげられるだろうか、災害があつたらちゃんと避難できるのか、私はとても心配です。

民生委員のお仕事の中には、高齢者の方が住んでいるお家に様子を確認しに行くを書いてあり、私達家族が会いに行けない時も見守ってくれるのはとても助かります。

今回この作文を書くまでは「民生委員、児童委員」というものがある事を私は知りませんでした。お金を貰わずに地域の人たちを見守り、困っている人を助ける大切なお仕事だと書いてありました。地域の人たちがお互いに気にかけてあい、助け合うとても素晴らしい取り組みだと思います。

私も大人になったら、民生委員さんや児童委員さんのように、自分の住んでいる地域の事を考え、だれかの「安心」になれる人になりたいと思いました。

■佳作

人と人との関わり

旭川市立旭川小学校 六年

えん どう ちなみ
遠藤 千菜美

私は、あまり近所の人たちとの関わりがありません。私はマンションに住んでいます。マンションの人たちも、あまり人付き合いが得意ではないようで、「おはようございます」とあいさつをしても無視されることが多くありません。近所の方も、関わりがありません。ですが、毎年、冬にマンションの除雪をしに来てくれる人は礼儀正しく、あいさつをしてくれます。

ある日、その人が朝早くに除雪しに来ました。それに気づいたお母さんが「こんな朝早くに来たんだ。お礼をしに行こう。」と言い、外に出ていきました。そして、除雪が終わったところに話しかけました。「いつもありがとうございます。寒いのに大変ですね。」と、温かいコーヒーとあまいみかんを手渡しました。するとその人は嬉しそうに、「いえいえ、ありがとうございます。」と、笑顔でコーヒーとみかんを受け取りました。

その時まで、私は、近所の人や家族以外の人々との関わりがほぼありませんでした。ですが私は、除雪をしに来てくれている人に対してのお母さんの感謝の気持ち、それに対しての対応を見て、人と人との関わりはとても温かいものだと思いました。なぜなら、除雪しに来てくれていることは、当たり前ではありません。仕事でも、辛い時があると思います。それに対して、当たり前のように思い、感謝も何もしないことは失礼に値します。なので、

いつも感謝の気持ちを持って接し、その気持ちを言葉にして伝えることが大切だと思うようになりました。

その日から、マンションの人たちに見えなくても、なるべくあいさつをするようになりました。人と人との関わりの温かさ、気づいてほしかったのです。

なので、これからも、人と人との関わりを大切にしていきたいです。



【講 評】

第3回（令和7年度）旭川市内小学生『民生委員・児童委員』作文コンテストには、小学5・6年生から26校847編の応募があり、大変ありがとうございました。

作文の内容は、テーマに沿って①家族の素晴らしさや絆、②隣近所との関わり合いや助け合い、③人と人の関わり合いやあいさつ、④高齢者や障がい者と共に生きること、⑤町内会との関わり必要性、⑥民生委員・児童委員の活動などについて、自らの体験を基に、感じたことや考えたことを自分なりの言葉で表現されていました。

さて、今回の最優秀賞に輝いた千尋玲奈さん（向陵小）の作文『地域の見守り役「民生委員」』は、介護職をしているお母さんのお話や、フリーペーパー「みんせい」から民生委員は身近にいて、地域から信頼されながら、みんなの安心を支えてくれていると感じ、表現しています。また、自分の経験の中で「自分も周りから信頼されている」と思えた喜びをボランティアの原動力として、これからも頑張っていこうとしている玲奈さんが目に浮かぶ内容にでした。改めて、私たち民生委員・児童委員は、もっと「地域の身近な存在で、地域の人達から信頼を受ける」を意識した活動を展開することを求められていると考えさせられました。

審査委員は全ての作文を読ませていただきましたが、小学

校5・6年生とは思えない素晴らしい作文が多く、とても感銘を受けました。陰には、ご家族や地域の人達、学校などが「支え合う住みよい社会」について、子どもたちに真剣に話をされている様子がうかがわれ、うれしく思います。

これからも、さまざまな方法で子どもたちとたくさん話し合って「支え合う住みよい社会」の実現に向けていきたいものです。

令和八年三月

第三回（令和七年度）旭川市内小学生
民生委員・児童委員』作文コンテスト

審査委員長 浅野 正 一



《 作成・発行 》

旭川市民生委員児童委員連絡協議会 会長 市 川 陽 一

住 所：〒070-0035

旭川市5条通4丁目旭川市ときわ市民ホール1階

社会福祉法人旭川市社会福祉協議会内

電 話：(0166) 56-0150 / FAX (0166) 23-0746

メー ル：siminjiren@asahikawa-shakyo.or.jp